

令和7年度武蔵村山市立学校 学校経営方針

学校名 第二小学校

校長名 細田 真司

教育目標

責任感をもち、自ら進んで、積極的に、ねばり強く物事に取り組める子供を育成する。

- 物事をよく考え、向上しようとする子供 (考える子)
- 豊かな心をもった思いやりのある子供 (やさしい子)
- 体を丈夫にし、物事を根気強くやりとげる子供 (つよい子)

1 目指す特色ある学校像

「児童と教師が自分らしく生き生きと学び、共に成長し、一人一人が明るく輝く学校」
キーワード(スマイル&チャレンジ)「A あたりまえのことを B ばかりにしないで C ちゃんとやる」

- (1) 児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして、伸びる喜びをつかむ。
- (2) 確かな自尊感情をもち、周りの人を大切にする。(自分もみんなも大切)
- (3) 保護者・地域との協働により、児童の安心と安全が、保障される。

2 経営の具体策

○学びに向かう姿勢を育成(完全午前5時間制充実)

- ・授業のめあてとねらいを明確にするとともに、カリキュラムマネジメントを重視する。
- ・一人1台端末を効果的に活用し児童への多様な学びを保障するとともに、学び合い活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現する。

○自尊感情の育成と美しい志の醸成

- ・自己を見つめ、よりよい人間関係を育むために、特別の教科 道徳の授業や特別活動の指導の充実・工夫を図る。
- ・縦割り班活動等での体験学習や交流等の教育活動を通して自尊感情を高め、誰に対してもそのよさを認めることができる美しい志を醸成する。

○個に応じた支援と指導の充実

- ・不登校担当コーディネーターを中心とした全教職員が連携した支援体制を構築するとともに、スクールカウンセラー及び教育相談室等関係機関並びに保護者と連携・協力し早期解決を図る。
- ・特別支援教育校内委員会を充実させ、個に応じたきめ細やかな指導を図る。

○児童の安全と安心を重点とした教育環境づくりの推進

- ・児童が自己の課題を解決しようと笑顔で自ら挑戦していける教育環境をつくる。
- ・「自分で判断し、考え、行動できる児童」を育成する。
- ・保護者、地域と協働し、児童一人一人が安全のもとに安心して活躍できる教育環境をつくる。

まちづくり学習の推進に向けた方策

○「ふるさと シン発見! 未来につなげる まちづくり学習」

- ・全体計画や年間指導計画に基づき、体験活動を重視した教科横断的な学習を実施する。特に「ミカン農園(3年)」、「村山大島紬(4年)」、「地域のお囃子(6年)」など、地域人材を積極的に活用した学習を進め、地域の伝統・文化の理解や、地域への愛着を深める。
- ・「もっと知ろう 魅力いっぱい武蔵村山市(4年)」、「武蔵村山のよさを知り、未来を考えよう(5年)」などの単元を通して、地域のよさを知り、未来のまちの姿を考え、学校内外に発信する。

小中一貫教育推進に向けた方策

○人権教育を柱とした五中校区の小中一貫教育を推進する『確かな学力と豊かな心を育み、自信と誇りをもって21世紀を逞しく生き抜く子供の育成』

- ・人権教育の視点を加えた「五中校区スタンダード」を基に、2学期に行う授業研究の準備等を8月の合同研究会において行い、9月以降の研究、実践に生かしていく。
- ・年間3回の五中校区学校運営協議会と連携して、健全育成に向けて、学校・地域とが一体となった一貫教育の推進を図っていく。